



認知症まちづくり 地域円卓会議 in 西原

「認知症です」と近所や親せきに、
遠慮なく言える地域づくりを考える

実施報告書

日 時： 2023 年 3 月 7 日（火）13:30-16:10（受付開始 13:00-）
場 所： 西原町中央公民館 大ホール（沖縄県中頭郡西原町字与那城 124）
主 催： 社会福祉法人西原町社会福祉協議会、沖縄県認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】認知症まちづくり地域円卓会議 in 西原



■日 時：2023年3月7日（火）13:30-16:10
■場 所：西原町中央公民館 大ホール
■着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
■来場者数：38名（福祉・医療関係者、行政、自営業等）

■主 催：社会福祉法人西原町社会福祉協議会
沖縄県認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、
公益社団法人沖縄県地域振興協会）
■協 力：NPO法人まちなか研究所わくわく

論点提供

後當 聡子（社会福祉法人西原町社会福祉協議会 あんしんおさんぽ事業係）

「認知症です」と近所や親せきに、遠慮なく言える地域づくりを考える

自分の家族が認知症であるということを周りに言えないというエピソードをしばしば耳にします。「恥ずかしい」とか「迷惑や心配をかけたくない」といった感情に起因して踏み出せないのでは、という理由もあわせて聞こえてきます。しかし、後期高齢者では認知症に罹患する方が3人に1人以上という傾向の中で、この問題が近所や親戚に頼ることができない一因になっているとすれば、これは社会課題としてとらえるべきだと考えます。今回の円卓会議では、人に言えないという困りごとの原因を議論し、社会で受け止められるようにしたいと考えて企画されました。多くの方々の参加をお待ちしています。

センターメンバー



後當聡子
社会福祉法人
西原町
社会福祉協議会
あんしんおさんぽ
事業係



伊計弘子
当事者家族



下門和政
小波津団地
自治会副会長
地域福祉
推進委員



譜久村沙耶子
西原町役場
福祉課
介護支援係



城間綾子
西原町役場
福祉課
介護支援係



兼本哲夫
沖縄県
浦添警察署
生活安全課
課長



上地武昭
沖縄大学
名誉教授

認知症まちづくり

地域円卓会議

地域の围りとも社会課題として共有共感する場

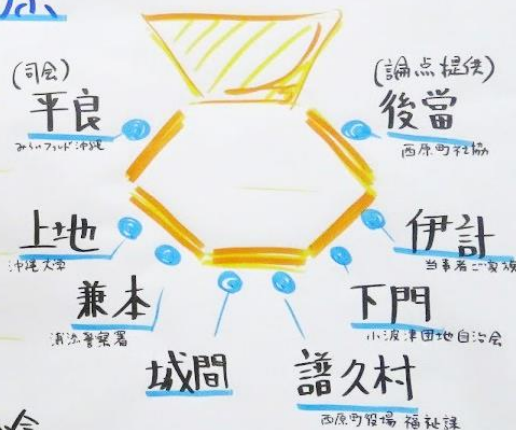
in西原

「認知症です」と
近所や親戚に、
遠慮なく言える
地域づくりを考える

2023.3.7(火)

13:30~16:10 ①

④ 西原町中央公民館 大ホール



主催 社会福祉法人 西原町社会福祉協議会

沖縄県認知症見守りコンソーシアム (公財) みらいふ沖縄、

(公財) 沖縄県地域振興協会)

協力 NPO法人 まちなか研究所 ゆくゆく

論点提供

後當 聡子さん

西原町社会福祉協議会

あんしん おさんぽ事業

2022.9~(3年間)

町内在住の認知症当事者
ご家族
みまもり・みちまより

安心にらせる地域づくり

ICT-ミマモライド
みまもりシステム

既存の地域活動
と連携

負担軽減

住民同士が
了了了たしあ
実践できる
コミュニティづくり

理解者・協力者をつくりたい

- 畑仲間との交流
- 医療関係のめいへたより
- 友人関係を娘が知り
顔の見える関係づくり

事例 70代 女性 主婦 ②

2022. コロナ感染

⇒ 身体・認知力への低下

「ちょっとおかしいわ〜」

診断 → 軽度 → 不安・ショック

介護認定がでない 元介護士 (専門職だったから
こそわがたはう不安)

し 11才にみる 受容しきれない
段階

引こしたばかり

→ 環境がわったばかり

- 親戚の理解不足
- 引っ越してきたばかり、開示の不安
- 犯罪にまきこまれないうか

安心して、自分らしく暮らせる
地域づくりは人づくり

みまもる目が複数あれば

居場所

困っているとも言える、

「認知症です」

支えあえる

地域づくり

③ 譜久村 沙耶子 さん

③ 城間 綾子 さん

西原町福祉課 介護支援係

認知症カフェ 貝守りQRコードシール

いっしょに暮らす共生事業 パネル展

35000人(人口)

8000人こえた(65才～)

22.6%(高齢化) 若い世代もいわれている

2025 → 後期高齢者 が増えいく
 の割合

2020 → 2030 → 2040

75才～
 85才～) が増えいく

若い世代へっていく

西原町の
 特徴

年齢別・要介護認定率

認知症高齢者の日常生活自立度

2025 ⇒ 5人に1人が認知症

西原町の課題

● 20年後・後期高齢者の増加

● 要介護認定者の増加

↳ 約6割: 日常生活自立度Ⅱ以下

● 行方不明のそうさく依頼(増)

↳ R4年度 4件

目標

① 健康で自立した
高齢者が増える

② 虚弱高齢者が再び
元気になる

③ 認知症になっても
安心して暮らせる

パンフレット

居場所づくり

認知症高齢者の
 見守りと
 行方不明時の
 早期発見

認知症に関する
 支援

理解と
 対応力UP

伊計弘子 さん

西原町在住13年目 / 西原台団地

2019年、夫が朝、行方不明

翌日、みつける

SOSネットワークへ登録

1ト177入院 → 自宅へ

不在のときにはいかい ← 地域の方からおしえてもらう

役場 包括へ ケアマネ

2年半リハビリ

夜中、大声たして

2022.7月 入院

入院させるか悩んだ

民生委員・自治会に

進行性
核上性まひ
(指定難病5)

親身に
相談に
のってくれた

普通に声かけて
くれて、
理解してくれて、
そして見守ってくれた

下門和政 さん

小源津団地自治会 副会長
地域福祉推進委員

加入率
98%

332世帯 38.3%

R4.3月

高齢化率

地域福祉推進委員会 (月回)

地域の相談窓口 (民生委員児童委員)

こどもの居場所づくり

地域見守り隊活動

認知症高齢者行方不明

→ 手順と体制の検討

そうさく対象者の情報

→ 情報提供ハンイ

見守りがあるから安心して

散歩できる地域を

家族に強い応援団として

自治会として

兼本哲夫 さん

沖縄県浦添警察署 生活安全課長

課 10年

10年前

認知症 行方不明者 まれたら

R4 107 (行方不明受理)

18 (65才~)

13 (認知症)

通報 31件

R5.2月

見守りという
意識は
高まっている

行方不明者

自分の意志で出ていく ⇒ 「家出人」といいた
自分の意志では引いて出ていく人が増えてきた

家族の了承とれると、情報も出せる

届出は早ければ早いほど発見に

つながる

行方不明に詳しい方が届出を

警察犬の出動も可能

写真も

家族・友人・知人の協力も

上地武昭 先生

沖縄大学名誉教授

自治会の加入率

支えあい・助けあう役割があるならば

(安心・安全) 災害対応など

高齢者が増える中で

認知症の課題へ

地域の困りに
対応できる
自治会があれば
加入する

社協か(くみづい)

地域共生社会

住民主体

専門職

地域包括ケアシステム

75才がひとつのボーダー

0~100才まで支援する体制へ

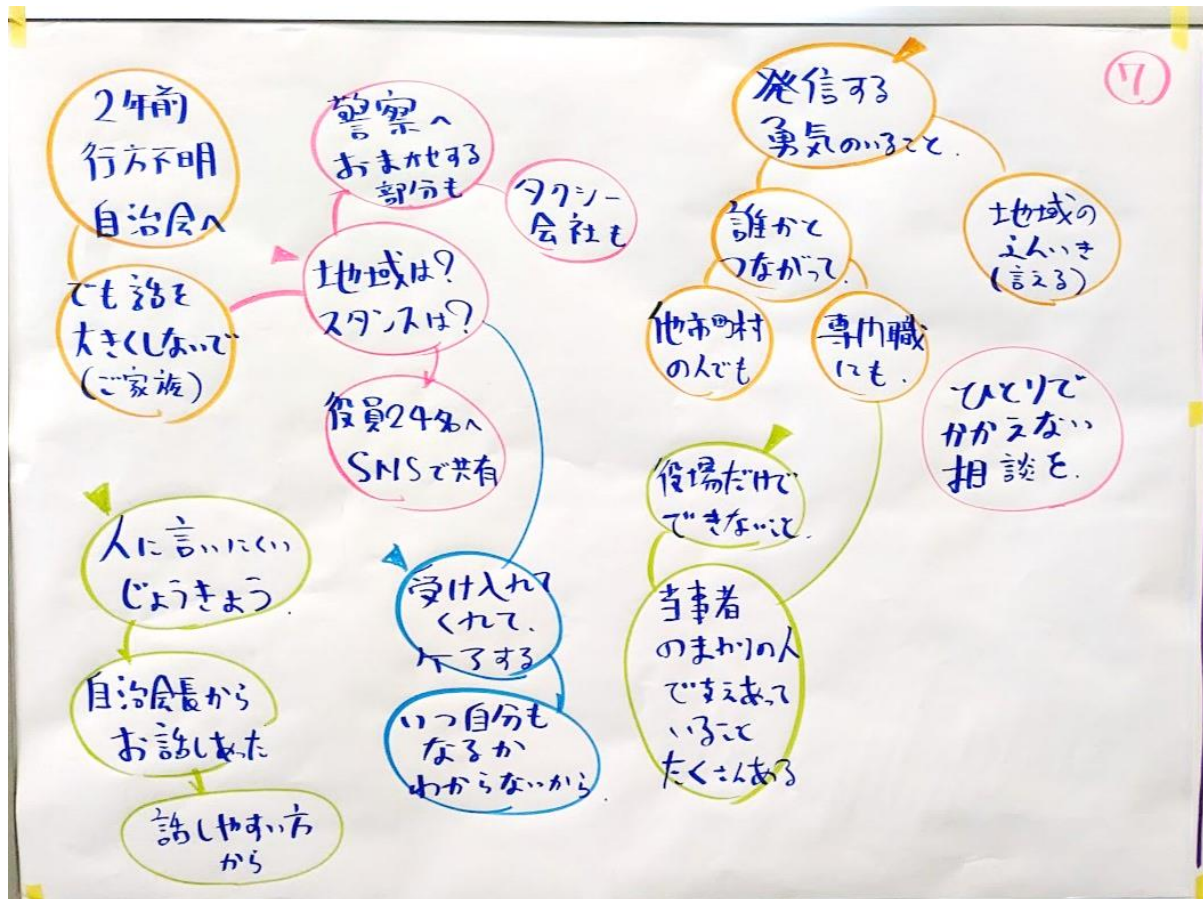
(包括的な支援体制の(くみづい))

が国をあげて、すすもうとしている

西原町の「支えあい委員会」 ネットワーク

「向こう三軒両隣」の関係づくりと専門職の

食
運動
社会との関係



まとめ

開示することの悩みが、とうとう
よい時間になった。

ふんいきづくり、声のかけ方など
事業にも生かせる。

むこう三軒両どなり、
啓発がまず大事。
サポーターの養成
理解者を増やす。

複数の人で支える
専門性ある人・地域・警察も

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 認知症まちづくりは、医療や福祉の専門家だけでなく、地域住民・企業・警察等、多様な領域の連携をもって支えていく問題である
- 認知症であることを周りに知らせていくことは、困難がつきまとう。まずは、地域に1人でもつながっている人がいることが当事者にとって安心につながる
- 西原社会福祉協議会は、そのつながりを可視化し、地域で起こりうる色々な困難に対するセーフティネットの基盤を整えるべき

■参加者によるサブセッション

「認知症です」と近所や親せきに、 遠慮なく言える地域づくりを考える

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ まえから小波津自治会とりくみ、すばらしかった
- ・ 認知症の方がえんりょなく言えるのはよい。いつ、自分が認知症になるかわからないから
- ・ 近所に迷惑かけたくない
- ・ 小波津自治会には3人の認知症の人がいる。ふだんから気になる人をみまもっていた
- ・ 地域のつながり、いいあんべー室にかよう人は老人会にいらなくてもつながりたい
- ・ 地域でやさしくつながりたい、本人や家族で
- ・ 認知症は、はずかしいという感情、迷惑かけるから、閉じこめてしまう。ねたきりになる前にネガティブにならないでほしい、えんりょしないで話しあうことは大事、みんなで意識、明日はわが身

②

- ・ 婦人会、子ども会
- ・ 南城市いとこ宅 警察 3.4年
- ・ GPS、玄関ブザー、10年前→運転
- ・ 健康がイチバン！
- ・ 詩吟、水彩画 etc...
- ・ 短いキョリを歩くこと、
- ・ 自分のことは自分で！
- ・ 自分のために時間を使う！
- ・ 地域のボランティア
- ・ 始めたばかり
- ・ 地域の方の声が嬉しい
- ・ 昔から団地のつながりが強い！
- ・ あいさつから地域作り
- ・ 下門さんすばらしい

- ・ プライバシーは守りながら...

③

- ・ 地域に相談できない利用者、Fa もいる
- ・ 利用者さんが「歩いてたよ～」と近隣の方が教えてくれる
- ・ 一人暮らしの女性、元気だが前も同じことを言ったな、気になる
- ・ 「前とちがうな」
- ・ 「認知症」と言わずに関わっていく、時間とともに変わってきた本人に必要な居宅につなげることが
- ・ 本人より「何を手伝ってほしくない」
- ・ カフェから地域へも発信

④

- ・ 問題はまわりの人（本人はその人らしく生きている）
- ・ みんなが許容できる社会
- ・ 恥ずかしがらずといかける
- ・ 高齢者同士、不安を共有できる。でも若い人は？地域の指導
- ・ まっただけじゃなくて自分からも入っていくコミュニティ

⑤

- ・ 地域づくり、自助＜共助＜公助 システムづくり
- ・ 自治会が中心
- ・ 参加少ない
- ・ 次世代が少ない
- ・ 見回り
- ・ いいあんべーを知らない

- ・ 言うだけではなく公人も参加してほしい

⑥

- ・ 近隣所関係は良好！
- ・ 本人と家族の想いの違いがありなかなか聞き出せない、話してもらえない
- ・ →自身の子どもや孫を通して話し易い雰囲気づくり

⑦

- ・ 今日の会のような会を通しての仲間づくり
- ・ 意識をもって地域におとしていく
- ・ 相談場所を把握しておくこと（大切！）
- ・ いいやんべーに来るひとは元気
- ・ 来ない人達をどう参加してもらっていくか課題
- ・ 見守り、電話等で声かけしている、気になる人をはあく
- ・ 地域でのイベント作り
- ・ 模合もやっている

⑧

- ・ 地域づくり
- ・ 写真とか情報など、登録するのにちゅうちょしてしまう→きがねなく相談できる環境をつくった方がよい
- ・ バスののりまちがえ
- ・ 家族が認知症あり。迷惑行動でクレームがあって謝ざいた。
- ・ 認知症サポーターようせい講座（キャラバンメイト）→もっと運用できた。
- ・ 老人会→青春会
- ・ 高齢者のみの自治会が多そう。
- ・ 自治会であらそいがあってこわかった。
- ・ 大変そう・自治会で格差あり。入りたくても入れない所も。
- ・ ボランティア～〇万〇〇万

⑨

- ・ 地域一部が活性化している 少し淋しい
- ・ いつものメンバー
- ・ 声かけてものってこない
- ・ 行事は参加しなくてもいい
- ・ 認知症は皆がなる可能性あると知る
- ・ 去年まで症状ある方いた
- ・ 今は施設に入って途たえている
- ・ 講座も受けて変わった部分もある
- ・ どうして理解させるか、受け入れるのか、雰囲気作り、ギクシャクしたかんじだった
- ・ 「自分認知症」と普通に言えたらいいが…
- ・ 今気になる人がいる
- ・ 息子が来て弁当2つあったの一つ誰かが→息子に攻撃する
- ・ 持って行った、先週男性のケアマネージャーが来ていた
- ・ こういう気になる人を集める？他の人との交流をさせたい
- ・ 「来てね」と言うが体操とかしかしなのでついていけないのか→参加しやすいプログラムが必要
- ・ 少し弱った人、家にこもっている人
- ・ 来年とりくむ「皆ができる運動」

（１）地域で様子違うなど言う時誰に伝えるか→相談窓口の浸透

→認知症という言葉フィルターかかっている、症状で対応できたら、→当事者の講演に参加したことがある→手伝って欲しい時まで手出しして欲しくない

（２）小波津団地

「何かあったら声かけてね」

短い距離歩く

ボランティア活動始めたばかり

地域作りも大切だが自分達のプライバシーも大切

認知症まちづくり地域円卓会議 in 西原 参加者アンケート集計

◆概要

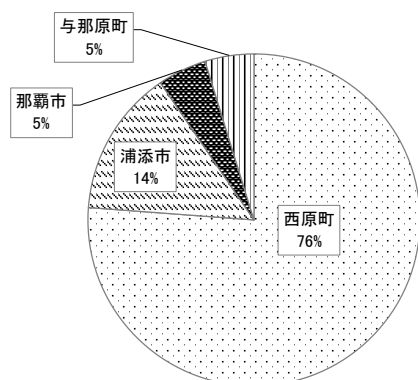
- ・日時：2023年3月7日（火）13:30-16:10
- ・場所：西原町中央公民館 大ホール
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：38名（アンケート回収21名、回収率55%）

4. 満足度

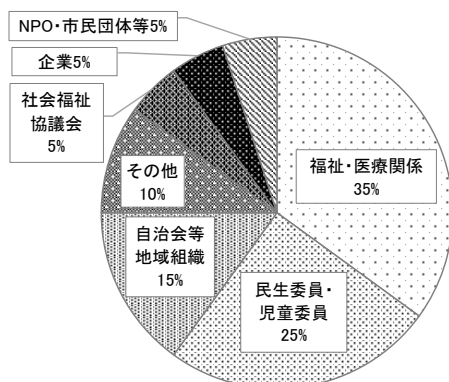
平均：4.6（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足
11名	7名	2名	1名	0名

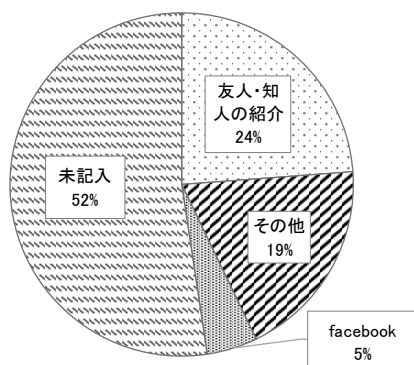
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 認知症について具体的な知識はなかったのですが、個別的な体験を聴いて参考になりました。小波津団地の取り組みもあり、地域の助け合い活動等のお話しも良かったです。
- ・ 勉強になりました。地域の見守り大事と思います。認知症のお話し。
- ・ 当事者の方（家族）の話しがきけた
- ・ 自治会加入が低い地域では核家族も増える中で地域の共有が大事だと感じた
- ・ 各自治体の取り組みの好事例が聴けた。対策 etc
- ・ 私たちの地域でも起こりえる問題にいろいろな話を聞くことにより、必要性や問題が起きたことの対処ができるように対応したいです。
- ・ 地域の実際の取組、行政の考え方等を知る事ができた。
- ・ いろんな地域の情報の流れがきけてよかった

（4. 概ね満足）

- ・ 認知症の人への対応が参考になった。まずは声かけ。
- ・ 発表とセッションを交互にやって欲しい
- ・ 今後、地域（市町村・団地）での高齢化のすい等改めて確認することができた。5年後20年後の地域力を想定しながら、利用者と関わられるようにしたいと思った。

- ・ グループワークで当事者の話が聞けた
- ・ 認知症は身近な問題です。認知症ですって
言える社会が作れるなら協力していきたい。

(3. 普通)

- ・ 地域情勢が変化していくのがギモン
- ・ 自治会支援をするスペシャリストがいたら
良くなるのでは

(2. あまり満足してない)

- ・ 認知症の方の理解が十分でない。はい回も
あるが進行すると今のことは忘れても過去
の(若い頃の)ことはしっかり覚えている、
話をする機会をつくる。みんなが参加する
自治会、地域づくりが急務。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 地域での見守りの大切さ(公助)が印象にな
っています。司会者のまとめ力に感心しま
した。(分かり易かったです) ふりかえりの
説明もすばらしかったです。ありがとう。
- ・ 下門さんのお話すべてすばらしかった。認
知症のお話。
- ・ 小波津団地の連絡体制
- ・ ①地域の方への声かけが必要
- ・ ②連携→役場の担当、地域包括支援センタ
ー、ケアマネージャーを通して行政への手
続きがスムーズに出来る
- ・ ③最初に気づき情報共有すること
- ・ ④1人でかかえない
- ・ 認知症を周りから気づく雰囲気的大事
- ・ 小波津自治会のとりくみはすばらしかった
です
- ・ 社会性、食、運動→健康長寿を意識した人を
増やす
- ・ 自治会の活用、Fa が力になっておく(地域
の人に知ってもらい、近所づきあい)
- ・ 自然に困っている状況、症状に対応できる
地域の日、体制があるといいのかな・・・?
- ・ 地域との連携、情報等、普段の活動の中で部
落役割の間で、活動に役立たせたいです。

- ・ となりきんじよとの交流や自治会などの運
営かつどう
- ・ いかによりでかかんがえず話せる地域組織
ができるか
- ・ 下門さんを応援したい。人の先輩方は良い
見本を示してくれているので、後生に引き
継いでいきたい
- ・ 小波津団地のような団決力のある自治会が
もっとふえていけばいいなと思いました。
- ・ 小波津団地の取り組み
- ・ 自治会で認知症の会職組織づくりが出来
るといいと思います。小波津団地の取り組み
参考にしたい
- ・ 自治会の加入率 98%、そうさくシステム
- ・ 高齢者でも元気な方が支える仕組み
- ・ 小波津団地のように福祉推進委員をつく
って進める

(写真) 会場の様子



参加者

小波津自治会 2人
(民生委員)
()

- ・数人から、小波津自治会の
とくにお、おぼろしめた。
- ・認知症の方が、えんやなく言えるの
はよい。いつ、自分が認知症に
なるかわからないから。
- ・近所には迷惑かけたくない

問題はまわりの人。
(本人はその人らしく生きて)

みんなが言合える社会。

- ・取っつきやすさといふこと
- ・高齢者同士、不登と共有できる
でも若い人は？ 地域の指導
- ・まっただけじゃなくて自分から
入っていく。コミュニティ

① ③ 小波津自治会には、3人の認知症
人がある。ふだんから、気になる人
をみている。

- ・地域でのつながり。
いいあんばい室にがゆ人は、老人会に
いなくても、つながりた。
- ・地域でもさしくつながりた。
本人と家族で
- ・認知症は、はがしいという啓発。
迷惑かけると。同じにみえてくる。
おたきりになる前に。
おがたきりにならないでほしい。
えんやしない。治るあうことは大事。
おたきりなど。明日はおが身。

- ・地中包持
- ・ちきゅう
- ・オリンピック

・地域に相談できない
利用者。ふもいる
利用者から「歩いてたよ」と
近隣の方が教えてくる
一人暮らしの女性。元気が
前と同じことだった。気になる。
「前とちがうな」
「認知症」と言わずに
聞かなくていく。毎朝と共に
変わってきた本人を必要と
受け入れるにつなげるのが

婦人会、子ども会

南城市いこに宅 警察

GPS、支那州

3.4年

運転

10年↑

本人に「何を伝えているのか」
カフから地研へも発信。

健康がイキバン!

詩吟、水彩画etc...

短いキョリを軽くかくこと。

自分のことい自分で!

自分のために自分の時間を!

地域のボランティア。

地域のボランティア。

地域の声が好き。

昔から団地がつながり強い。

あいつから地域行事。

下町を歩けばいい。

ボランティアは守りながら...

小波団地
自治会員

○隣近所関係は良好!

○本人と家族の思いの違いがあり。

なかなか聞き出せない。話してもらえない。

↓

自身の子供や孫を通して話し易い雰囲気
づくり

